



JICA STAFF @ MOZAMBIQUE

「格差」の現実を
目の当たりにして

「人々の“心”を大切にしたい」

JICAモザンビーク事務所員

大野 憲太 さん

Ono Kenta

成長の兆しが著しいアフリカの中でも、8%の成長率を誇るモザンビーク。そんな国に赴任した大野憲太さんは、現地でどう感じているのか。

文=谷本 美加(写真家)



現在、JICAモザンビーク事務所、教育や保健分野の案件などを担当している大野憲太さん。大学では心理学を専攻していた。「今思えば、大学で学んだ心理学が、開発途上国で裨益者と接するときに、彼らの心理や社会の傾向を大切にするという点で、役立つているように思います」と話す。国際協力の仕事に就きつつあったのも、大学時代の経験だった。交換留学生としてニューヨークの北の町、ロチェスターに約1年間滞在していた。そこは、冬

防災分野の 協力の必要性を実感

当初こそ、首都マプトに林立する高層ビル群には驚いたが、仕事

にはマイナス30度にもなる寒さの厳しい町だ。大学で集めた毛布を黒人低所得者コミュニティで配るなどのボランティアサービスを経験し、大学と一本の川を隔てあまりにも違う生活がある現実を目の当たりにする。「世界をもっと見なくては」という思いが募り、国際協力の仕事につながっていった。2003年にJICAへ就職後、まず国内機関の一つ、JICA東京で途上国からの研修員の受け入れを担当した。世界各地の研修員と接したが、当時は、アフリカからの研修員はほかの国に比べて消極的だと感じたという。そのアフリカの中でも目覚ましい経済成長を見せるモザンビークにやって来たのは07年11月。赴任が決まったとき、最初はレゲエ音楽のイメージが浮かびました。それから、ポルトガル語圏なのでラテンのイメージ。でも全然違いましたね。ラテンの明るいイメージとは相反して、占領や内戦の影響なのか、どこか陰のある印象が今でもぬぐい切れないそうです。

でモザンビーク人と接するほどに、「著しい経済成長の国」や「アフリカの優等生」とは思い難い、この国の未熟な面と格闘する毎日だ。無資格教員が4割を超えているという教育の質の改善、HIV/AIDSの成人感染者が2割を超えているという感染症対策の向上など、現在進行中のプロジェクトに加え、防災分野の興味も尽きない。「赴任前の約2年半、本部の地球環境部で防災分野の事業を担当していました。予防的観点からの協力に加え、イラン、パキスタン、インドネシア、ソロモン諸島、ペルーと、被災地の復旧・復興支援に携わり、日本の得意分野とされる防災分野の協力にのめり込みました。モザンビークでも洪水が毎年のように起こり、07年末から08年初めにかけての被害では数万人が被災しているのです」と話し、事後対策よりも災害予防の大切さに力が入る。2月に始まったばかりの、



日本でJICAの研修を受けて帰国した帰国研修員の同窓会と共同で、マプトにある小学校の補修と維持管理の重要性を伝えるセミナーを計画・実施した。その学校の生徒たちと

モザンビーク政府や国際機関、各国ドナーが防災の在り方を話し合う「防災ワーキンググループ」にも、積極的に関わっている。「現場をできるだけ回りたい。そして、この国の人々が何を思い、何を必要としているのか、彼らの心の中を理解したいと思っています」と、現地の人々の視点を踏まえた途上国の発展のための媒介役を果たしていく。



PARTNERS

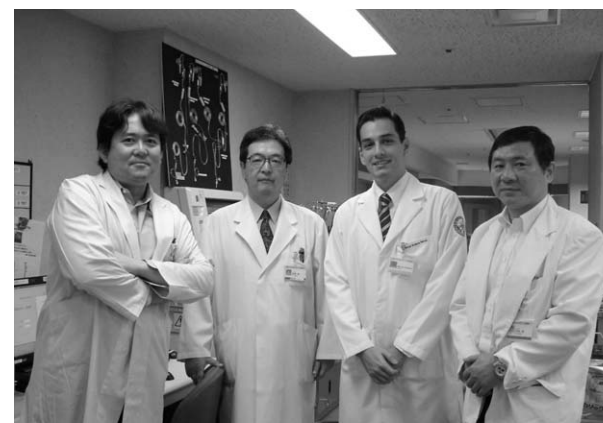
団体 財団法人海外日系人協会

日本と世界をつなぐ 日系社会の発展のために

1908年6月、ブラジルへの最初の日本人移民がサントス港に到着してから、ちょうど1世紀がたった。現在、海外日系人は約260万人に及ぶ。財団法人海外日系人協会は、JICAと連携しながら、国内外の日系人に対して幅広い支援を展開している。

国内外の日系社会の 活性化を目指して

日本を離れ、海外に移住した日本人は、さまざまな苦難を乗り越えながら「日系社会」を形成した。その努力の結果、移住先での地位は徐々に確立され、今やその活躍が多方面で注目されている。海外日系人協会は、1960年に発足。戦後、海外の在留邦人・日系人から日本人の人々に救援物資が贈られたことに対する謝恩などを目的にスタートした「海外日系人大会」の運営事務局として活動を開始した。現在は、海外日系人との親善交流、日本語学習支援、JICAの日系研修員・留学生の受け入れ、海外移住資料館の管理運営、移住者、日系人に向けた広報誌の発行などを通じて、日系社会の活性化を支援している。



内視鏡の技法を習得するため来日したブラジルの日系医師、マルクス・フェルナンド・コダマさん(右から2人目)、JICA横浜内の図書室で第1回移民船「笠戸丸」の乗船名簿に祖父の名前を発見。自らのルーツを改めて知る機会となった

主要事業の一つが、日本で年1回行われる海外日系人大会の運営事務局として活動を開始した。現在は、海外日系人との親善交流、日本語学習支援、JICAの日系研修員・留学生の受け入れ、海外移住資料館の管理運営、移住者、日系人に向けた広報誌の発行などを通じて、日系社会の活性化を支援している。

日系社会と 互恵的な関係を構築

協会が長年にわたって培ってきた日系人支援のノウハウは、JICAの日系人支援事業にも大きく貢献している。その一例が、日系研修員・留学生の受け入れ事業。年間を通じて、医療、教育などさまざまな専門分野の研修プログラムを提案、実施している。また、協会に設置されている継承日本語教育センターでは、北中



日本語学校生徒研修の一環で海外移住資料館を見学する子どもたち。祖父母や両親のたどった歴史を知ること、日系人としての誇りと自覚が生まれてくる

南米諸国の日本語学校に通う日系人子弟を対象に、「日本語学校生徒研修」を年2回実施。公立中学校への体験入学やホームステイなどを通じて、日本語や日本文化の理解を深める機会を提供している。岡野護・業務部長は、「私たちの活動により日系社会が活性化され、日系人を通して現地社会における対日理解が促進される。そのような互恵的な関係を目指しています」と語ります。これからも協会が「懸け橋」となり、世界の日系人と日本の強い絆を築き、活動を続けていくことを期待したい。

財団法人海外日系人協会
〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港
2-3-1 JICA横浜2階
TEL: 045-211-1780 FAX: 045-211-1781
URL: http://www.jadesas.or.jp

日本から海外に生活の本拠地を移し、永住目的で生活している日本人とその子孫。国籍は問わない。



INFORMATION

米村でんじろう先生の サイエンスショーが 大盛況!

3月30日、JICA地球ひろばで「でんじろう先生が見たアフリカ理科教育の世界」が開催された。このイベントは、昨年9月、米村でんじろう先生がテレビ番組撮影のため、ケニアの中等理科教育強化計画プロジェクトなどを訪問したことがきっかけで実現した。当日は、春休み中ということもあり、約300人の親子連れや若者が訪れ、大盛況だった。

でんじろう先生は、テレビでもおなじみの「ブーメラン」や「巨大空気砲」など、身近な素材を材料とした数々の実験を披露。静電気を体で感じる「100人おどし」は、会場全員参加で行われた。

続いて、理科分野の青年海外協力隊OB・OGとJICA国際協力専門員による座談会が開催され、参加者はJICAのアフリカにおける教育分野の協力で興味深く耳を傾けていた。



会場に空気砲を発射するでんじろう先生

「JICAジュニア専門員」 募集

現在、JICAでは、平成20年度第一次ジュニア専門員を募集しています。

ジュニア専門員は、国際協力の経験を持ち、将来も同分野での活動を志望する人に対して、JICAの実務に携わる機会を提供する制度です。この制度は、国内外で3年間の実務研修を行い、JICA事業を通じて、特にマネジメント力を強化することを目的としています。

平成2年度の開始から現在まで、すでに450人を超える人たちが委嘱されています。修了者の多くは、その後もJICA専門家、開発コンサルタントなどの国際協力の人材として、開発援助関連の現場で幅広く活躍しています。

平成20年度第一次募集の締め切りは、7月1日(火)です。募集の詳細は、ホームページ(<http://www.jica.go.jp/recruit/jsemmoin/>)をご覧ください。皆さんのご応募をお待ちしています。

問 JICA国際協力人材部総合研修センター 援助人材育成課

TEL 0332693022

平成20年度第1回「世界の 笑顔のために」プログラムで 途上国に贈る物品を募集中

「世界の笑顔のために」プログラムは、開発途上国が必要とされている教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を日本で募集し、JICAが派遣中の青年海外協力隊をはじめとするボランティアを通じて、世界各地へ届けるプログラムです。平成19年度は計2回実施、国内延べ820の個人・団体の方々にご協力いただき、世界57カ国に7万1498点の物品を贈ることができました。その後、物品を受け取った人々からの喜びの声が続々と届いています。

送付方法などの詳細は、JICAホームページ(<http://www.jica.go.jp/partner/smile/>)をご覧ください。なお、発送元から指定倉庫(東京都内)までの送料は、物品提供者のご負担となります。

募集期間 7月1日(火)まで
問 JICA青年海外協力隊事務局「世界の笑顔のために」プログラム係
TEL 0353525550
(平日10時～17時)

Eメール jicai-v-egao@jica.go.jp

JICA地球ひろば 「世界の幸せと悲しみ ～人間の安全と保障～」

JICA地球ひろば体験ゾーンでは、6月29日(日)まで、「世界の幸せと悲しみ～人間の安全と保障～」を開催しています。教育・医療・食料など、世界の課題について、写真・映像・手に触れられる展示資料などを交えて紹介しています。

このほかにも、6月には「シルクロードプロジェクト2008」(3～8日、主催：NPO法人国際テキスタイルネットワークジャパン)、「手を洗おう会 子供絵画展」(10～22日、主催：手を洗おう会)も開催しています。

7月1日(火)～8月31日(日)の基本展示のテーマは「環境」です。最新情報は、ホームページ(<http://www.jica.go.jp/hiroba/>)でご確認ください。

会場 JICA地球ひろば(東京都渋谷区)
開館時間 10時～20時(土日祝は18時まで。月曜閉館。6月29日は正午まで閉館)
問 JICA地球ひろば 地球案内デスク

TEL 0120767278